

言語学

授業科目名	授業題目	単位数	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日 講時
言語学概論Ⅰ	言語学入門(基礎)	2	内藤 真帆	3	金曜2限
言語学概論Ⅱ	語用論の基礎と関連領域	2	加藤 重広	4	集中講義
言語学基礎講読Ⅰ	言語学への招待Ⅰ	2	小泉 政利	3	金曜1限
言語学基礎講読Ⅱ	言語学への招待Ⅱ	2	小泉 政利	4	金曜1限
音声学Ⅰ	音声学概説・調音音声学	2	内藤 真帆	3	水曜3限
音声学Ⅱ	音響音声学・聴覚音声学	2	内藤 真帆	4	水曜3限
言語学各論Ⅱ	音韻論概説Ⅰ	2	那須川 訓也	5	火曜2限
記述言語学各論	フィールド言語学の実践と理論	2	内藤 真帆	5	水曜4限
理論言語学各論	統語論入門	2	小泉 政利	5	火曜3限
実験言語学各論	コーパスを活用した定量的分析入門	2	小磯 花絵、鈴木 あすみ	5	月曜3限
言語学論文演習Ⅰ	言語学研究法Ⅰ	2	小泉 政利、内藤 真帆	5	金曜3限
言語学論文演習Ⅱ	言語学研究法Ⅱ	2	小泉 政利、内藤 真帆	6	金曜3限
言語学演習Ⅱ	音韻論概説Ⅱ	2	那須川 訓也	6	火曜2限
記述言語学演習	未知の言語の調査と分析	2	内藤 真帆	6	水曜4限
理論言語学演習	語順選好の認知脳科学	2	小泉 政利	6	木曜1限

科目名：言語学概論 I

曜日・講時：金曜 2 限

セメスター：3 単位数：2

担当教員：内藤 真帆

コード：LB35202, 科目ナンバリング：LHM-LIN215J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：言語学入門（基礎）

2・授業の目的と概要：言語学の基礎的な概念を理解すると同時に、さまざまな言語との分析・比較を通して日本語を客観的に理解する。また世界の言語の普遍性と多様性を理解する。

3. 学習の到達目標：①言語学の基礎的な概念を理解し、言語学的な視点からさまざまな言語の分析ができる

②他言語との分析を通して日本語を客観的に捉えることができる

③世界の言語の普遍性と多様性を理解し、説明することができる

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス・言語と言語学
2. 音声学 1：日本語の子音と母音、英語の子音と母音
3. 音声学 2：世界の言語の子音と母音
4. 音韻論 1：音声と音素
5. 音韻論 2：拍と音節、韻律（日本語と英語を対象に分析・比較する）
6. 形態論 1：形態素、接辞、語形成のプロセス
7. 形態論 2：形態素分析（日本語、英語、その他の世界の複数言語を対象に分析を行う）
8. 統語論 1：統語構造
9. 統語論 2：統語分析（日本語と英語を対象に分析・比較を行う）
10. 意味論 1：命題、モダリティ、ヴォイス
11. 意味論 2：テンス、アスペクト
12. 類型論 1：言語の系統と言語類型論
13. 類型論 2：世界の言語と日本語（複数言語を分析・比較する）
14. 言語の系統
15. 振り返りとまとめ

5. 成績評価方法：期末試験 70%、発表 30%

6. 教科書および参考書：適宜、資料の配布および参考書等の紹介を行います。

7. 授業時間外学習：毎週、事前に示された内容の予習および講義の復習をして下さい。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

本講義は登録日本語教員養成プログラムの一部です。

科目名：言語学概論Ⅱ

曜日・講時：集中講義

semester：4 単位数：2

担当教員：講師（非）

コード：LB98801, **科目ナンバリング：**LHM-LIN216J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：語用論の基礎と関連領域

2. 授業の目的と概要：語用論(pragmatics)の趣旨, 基礎概念(情報・指示・言語行為・推意など)と研究方法を学び, あわせて関連領域として, 対人語用論・社会語用論・歴史語用論・発達語用論・メタ語用論・対照語用論・パラ語用論なども学ぶ。

3. 学習の到達目標：語用論の知識と方法論を使って, 事例の分析ができるようになることを到達目標とする。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

以下の内容を予定している。

1. 言語学における語用論
2. 語用論の誕生と哲学的伝統
3. グライス系の語用論
4. 情報語用論(ネオ・グライス系)
5. 言語行為論
6. 文脈と発話解釈
7. 推意と表意
8. 指示語用論
9. メタ語用論と標識
10. 対人語用論とポライトネス
11. 歴史語用論
12. 対照語用論と文化的要因
13. 発達語用論
14. 文法と語用論(統語語用論)
15. パラ語用論とその他の問題

5. 成績評価方法：レポート：70%、受講レポート：30%

6. 教科書および参考書：必要な資料は事前に利用できるようにする

7. 授業時間外学習：各回の講義を理解するために一定時間の予復習を必要とする

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business

9. その他：

科目名：言語学基礎講読 I

曜日・講時：金曜 1 限

セメスター：3 単位数：2

担当教員：小泉 政利

コード：LB35102, 科目ナンバリング：LHM-LIN217J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：言語学への招待 I

2. 授業の目的と概要：英語で書かれた言語学の入門書の講読を通じて、言語学の基礎を身につけます。

3. 学習の到達目標：英語で書かれた言語学の文献が読めるようになること。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 Guidance
- 2 Why study linguistics
- 3 How English has changed over the centuries
- 4 How words are made
- 5 How words mean
- 6 How phrases are formed
- 7 How sentences are formed
- 8 How sentences mean
- 9 How to communicate with other people
- 10 The sounds of language
- 11 Regional varieties
- 12 Language in Society
- 13 How language is acquired
- 14 How a second language is acquired
- 15 Review and exam

5. 成績評価方法：概ね以下の基準で総合的に評価する。

- ・発表：40%
- ・課題：40%
- ・試験：20%

ただし、筆記試験の答案の提出を単位認定の要件とします。

6. 教科書および参考書：教科書

Kegeyama, Taro et al. First Steps in English Linguistics. 2nd Edition. Kuroshio Publisher.

7. 授業時間外学習：自ら主体的に計画と目標を立て、自律的に準備学習に取り組んで下さい。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：言語学基礎講読Ⅱ

曜日・講時：金曜 1 限

セメスター：4 単位数：2

担当教員：小泉 政利

コード：LB45103, 科目ナンバリング：LHM-LIN218J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：言語学への招待 II

2. 授業の目的と概要：英語で書かれた言語学の入門書の講読を通じて、言語学の基礎を身につけます。

3. 学習の到達目標：英語で書かれた言語学の文献が読めるようになること。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 Guidance
- 2 Scientific Approach to Language
- 3 Rationalism versus Empiricism
- 4 Universal Grammar
- 5 Lexical and Functional Categories
- 6 Syntax: The Core of Grammar
- 7 Generalizing Phrase Structures: X'-Theory
- 8 Reformulating Clause Structures
- 9 Thematic Roles
- 10 Passivization: Case and NP-movement
- 11 Anaphors, Pronominals, and R-Expressions
- 12 Quantifier Scope
- 13 NP/DP and PP
- 14 Unaccusativity
- 15 Review and exam

5. 成績評価方法：概ね以下の基準で総合的に評価する。

- ・発表：40%
- ・課題：40%
- ・試験：20%

ただし、筆記試験の答案の提出を単位認定の要件とします。

6. 教科書および参考書：教科書

Kishimoto, Hideki. Analyzing Japanese Syntax: A Generative Perspective. Hituzi Syobo

7. 授業時間外学習：自ら主体的に計画と目標を立て、自律的に準備学習に取り組んで下さい。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

科目名：音声学 I

曜日・講時：水曜 3 限

semester：3 単位数：2

担当教員：内藤 真帆

コード：LB33306, 科目ナンバリング：LHM-LIN221J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：音声学概説・調音音声学

2・授業の目的と概要：音声産出のメカニズムと各音声器官の働きを把握したうえで、世界の言語音を対象に、「聞き取り・国際音声記号（IPA）を用いた書き取り・発音」の3点を実践的に身につけます。音声と書記法の違いを理解するほか、同化・異化、強勢など、聞き取った音声をもとに分析や考察も行います。

3. 学習の到達目標：①世界の言語音の調音を理解し、聞き取り、国際音声記号（IPA）を用いた書き取り、発音ができるようになる。

②聞き取った音声をもとに音声と書記法の違いや同化・異化など音韻論的な分析ができるようになる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 音声学とは一音声産出・音の物理的性質・音の知覚
2. 音声器官と音声産出のメカニズム
3. 調音位置と調音方法
4. 国際音声記号
5. 子音 1. 破裂音・鼻音・ふるえ音
6. 子音 2. はじき音・摩擦音・接近音
7. 補助記号を用いた書き取り
8. 世界の言語の聞き取り・書き取り・発音練習 1
9. 母音の性質と特徴
10. 単母音と二重母音
11. 世界の言語の聞き取り・書き取り・発音練習 2
12. 世界の言語の聞き取り・書き取り・発音練習 3
13. 音素と音声特徴
14. 拍と音節・強勢とピッチ・同化と異化
15. プロソディー

5. 成績評価方法：定期試験（70%）、発表（30%）

6. 教科書および参考書：適宜、資料を配布します。

（参考書）J. C. Catford, A Practical Introduction to Phonetics, Oxford University Press (2002)

7. 授業時間外学習：授業後には調音位置・調音方法を復習したうえで発音の復習・練習を繰り返して行ってください。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

音声学Ⅱ（後期開講）の受講希望者は、本講義（音声学Ⅰ・前期開講）を受講して下さい。

本講義は登録日本語教員養成プログラムの一部です。

科目名：音声学Ⅱ

曜日・講時：水曜 3 限

semester：4 単位数：2

担当教員：内藤 真帆

コード：LB43305, **科目ナンバリング：**LHM-LIN222J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：音響音声学・聴覚音声学

2・授業の目的と概要：言語音の物理的性質を実験的観察によって理解すると同時に、音を知覚するメカニズムを学びます。実験的観察ではパソコンを利用して、母音・子音の録音と分析実習を行い、調音と音声性質の相関性を科学的に分析する力を身につけます。さらにその発展的応用についても検討します。

3. 学習の到達目標：・ 音声の物理的側面を理解し、科学的に分析する手法を身につける。
・ 分析により、連続した音声から個々の音の特徴を導くことができる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 音響音声学・聴覚音声学とは
2. 聴覚器官と音の知覚
3. 純音と複合音
4. 波長・周期・周波数
5. 音源・共鳴・音源フィルター理論
6. パソコンを用いた音響分析の方法
7. 子音の調音と特徴
8. 共鳴音の波形とスペクトログラム
9. 阻害音の波形とスペクトログラム
10. 有声音と無声音
11. 母音の調音と特徴
12. 母音のフォルマント周波数
13. 狭帯域分析・広帯域分析
14. 聴覚現象
15. 音声性質・音の知覚にもとづく発展研究

5. 成績評価方法：定期試験（70%）、発表（30%）

6. 教科書および参考書：適宜、資料を配布します。

(参考書) Keith Johnson, Acoustic and Auditory Phonetics, Wiley-Blackwell (2011)

7. 授業時間外学習：波形を分析するためには調音音声学の知識が必要になるため、予習と復習を行ってください。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicate the practical business

9. その他：

音声学Ⅰの知識を前提とした内容になりますので、受講希望者は事前に音声学Ⅰ（前期開講）を受講してください。講義には毎回パソコンを持参してください。

科目名：言語学各論Ⅱ

曜日・講時：火曜 2 限

セメスター：5 単位数：2

担当教員：那須川 訓也

コード：LB52203, 科目ナンバリング：LHM-LIN330J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：音韻論概説Ⅰ

2・授業の目的と概要：この授業を通して、英語と日本語の母語話者が示す分節現象で観察される規則に焦点を当て、音声、言語（文法）構造を構成している単位としてどのように機能しているかを学ぶ。

3. 学習の到達目標：この授業を通して、諸言語話者の (i) 母語の音体系, (ii) 音現象を制御する規則, (iii) 文法理論における音韻知識の位置づけを説明できるようになる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

授業計画は以下の通りである。毎回の進度は受講者の様子によって若干変わります。

第1回：音韻論とは何か。

第2回：音韻論と音声学

第3回：規則体系としての言語

第4回：言語機能

第5回：中核文法と周辺体系

第6回：音素論

第7回：音素と異音

第8回：対立分布と相補分布

第9回：異音規則

第10回：音配列論

第11回：音韻範疇

第12回：母音素性

第13回：母音弱化

第14回：子音素性

第15回：子音軟音化

毎回授業の冒頭で、前回の授業内容を復習する。

5. 成績評価方法：レポート課題×1 [20%], 確認テスト×1 [70%], 授業への積極的な参加 [10%]

授業の5分の1を超えて欠席した場合は、単位の修得資格を失う可能性があります。また、公認欠席、就職試験に伴う欠席などのやむを得ない欠席以外の場合は、減点の対象となります。

6. 教科書および参考書：必要な適宜資料を配布する。

7. 授業時間外学習：毎回、授業で扱った教科書の個所と例を復習すること。そして不明な部分があれば、教員に尋ねること。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

9. その他：

科目名：記述言語学各論

曜日・講時：水曜 4 限

semester：5 単位数：2

担当教員：内藤 真帆

コード：LB53402, 科目ナンバリング：LHM-LIN331J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：フィールド言語学の実践と理論

2・授業の目的と概要：フィールド言語調査で得られた一次データを、特定の理論的な枠組みは使わずに、できる限り理論的に中立的な言語類型という視点から分析する方法を学びます。この分析を通して、様々な言語の音韻、形態・統語および意味の現象をとらえ、考察する能力を高めます。授業では基本的な短い文献の講読・発表と実際のデータの分析演習を中心に進めます。

3. 学習の到達目標：・世界の言語の類型論的特徴を理解し記述できるようになる。

・言語学的用語を正確に理解し使えるようになる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 イントロダクション
- 2 品詞
- 3 所有表現
- 4 語順 1
- 5 語順 2
- 6 文法関係
- 7 構文 1
- 8 構文 2
- 9 格 1
- 10 格 2
- 11 学問分野としての類型論、形態統語類型論のまとめ
- 12 意味類型論 1
- 13 意味類型論 2
- 14 音韻類型論
- 15 復習

5. 成績評価方法：期末試験(70%)

発表(30%)

6. 教科書および参考書：適宜、資料を配布します。

7. 授業時間外学習：授業後、扱ったデータや調べた文献をもとにして、さらにどのような調査や発展的分析・考察が可能であるかを考えてください。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：理論言語学各論

曜日・講時：火曜 3 限

セメスター：5 単位数：2

担当教員：小泉 政利

コード：LB52304, 科目ナンバリング：LHM-LIN332J, 使用言語：日本語及び英語

1. 授業題目：統語論入門

2. 授業の目的と概要：この授業では、生成文法と呼ばれる統語理論の基本的な考え方と理論的諸概念を紹介し、日英語を中心とした統語現象の分析方法について理解を深める。

3. 学習の到達目標：生成文法の基盤原理について説明でき、基本的な統語現象について分析できる能力を身につける。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス。生成文法の考え方
2. 範疇、構成素、依存性、文法関係
3. 句構造
4. 選択特性：範疇選択、意味選択、 θ 役割
5. X バー理論
6. 疑問文
7. 受動態と格理論
8. 中間確認小テストと解説
9. 関係節
10. 不定節と 例外的格付与
11. 不定節と制御理論
12. 上昇構文と非対格動詞
13. 指示関係と束縛理論
14. 空範疇
15. 期末確認小テストと解説

5. 成績評価方法：課題：30%、小テスト 35%×2 回

6. 教科書および参考書：Carnie, Andrew (2021) *Syntax: A Generative Introduction*, 4th edition. Wiley-Blackwell.

7. 授業時間外学習：予習・復習に各 2 時間程度必要と予想されます。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

9. その他：

科目名：実験言語学各論

曜日・講時：月曜3限

セメスター：5 単位数：2

担当教員：小磯 花絵

コード：LB51306, 科目ナンバリング：LHM-LIN333J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：コーパスを活用した定量的分析入門

2・授業の目的と概要：テキストの集積体であるコーパスは、言語学およびその関連領域の研究に様々な形で活用されている。本授業では、コーパスを活用した定量的分析の基礎的技術を学ぶ。そのために、オンライン検索システム「中納言」を用い、コーパスの検索方法と分析法を実践的に習得する。

3. 学習の到達目標：日本語の代表的なコーパスを対象に、基本的な検索とデータ集計の方法を身につける。学位論文研究に応用可能な、コーパス言語学の基礎知識を習得する。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. コーパスの概要 (教員)
2. 検索システム「中納言」の使い方の基本 (教員)
3. 『日本語日常会話コーパス』の使い方 (1) (教員)
4. 『日本語日常会話コーパス』の使い方 (2) (教員)
5. 『日本語日常会話コーパス』の使い方 (3) (教員)
6. 『日本語日常会話コーパス』の使い方 (4) (教員)
7. 『日本語日常会話コーパス』の使い方 (5) (教員)
8. その他の主要なコーパスの使い方 (教員)
9. コーパス研究課題設定 (受講生)
10. コーパス研究課題分析 (1) (受講生)
11. コーパス研究課題分析 (2) (受講生)
12. コーパス研究課題分析 (3) (受講生)
13. コーパス研究課題分析 (4) (受講生)
14. 研究成果プレゼンテーション (1) (受講生)
15. 研究成果プレゼンテーション (2) (受講生)

5. 成績評価方法：期末レポート 50%、発表 30%、毎回授業の最後に課すワークシート 20% によって評価する

6. 教科書および参考書：必要な適宜資料を配布する。

7. 授業時間外学習：各自が設定した課題に基づき、コーパスの検索および分析を行う。また、その結果を整理し、発表資料およびレポートとしてまとめる。授業時間内で終わらない場合には授業時間外に対応する。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：言語学論文演習 I

曜日・講時：金曜 3 限

セメスター：5 単位数：2

担当教員：小泉 政利、内藤 真帆

コード：LB55305, 科目ナンバリング：LHM-LIN334J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：言語学研究法 I

2・授業の目的と概要：授業は、参加者の分担による発表および質疑応答の形式で行う。

3年生は論文紹介の発表を行う。自分の関心により論文を選択し、論文の目的、方法、結果、考察についての確にハンドアウトにまとめて紹介する。その際、テーマの発見、調査や実験の実施、論の展開と提示、統計処理、参考文献の利用と提示など、論文を書くために必要な事項について「批判的な姿勢」から学びとる。これにより、卒業論文作成のための知識ならびに方法を身につけることを目的とする。

4年生は卒業論文の研究計画を発表する。テーマの選択や先行研究の動向についてまとめ、データ収集・調査・実験等の実施方法、分析手法、予想される結果と意義などについて、できるだけ具体的な経過と見通しを発表する。(10月の中間発表に備えて、9月末までに調査・実験等のデータ収集を終えられるように研究を進めること。)

その日の発表者以外の参加者は、他者の発表を聴き、ディスカッションに参加することによって、言語学の多様なアプローチへの理解を深めるとともに、論文を書くための方法を学びとる。

3. 学習の到達目標：言語現象に対する様々なアプローチを理解しながら、自らの関心対象を絞り、卒業論文のテーマを決定する。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. 論文1の紹介・研究計画発表、質疑応答
3. 論文2の紹介・研究計画発表、質疑応答
4. 論文3の紹介・研究計画発表、質疑応答
5. 論文4の紹介・研究計画発表、質疑応答
6. 論文5の紹介・研究計画発表、質疑応答
7. 論文6の紹介・研究計画発表、質疑応答
8. 論文7の紹介・研究計画発表、質疑応答
9. 論文8の紹介・研究計画発表、質疑応答
10. 論文9の紹介・研究計画発表、質疑応答
11. 論文10の紹介・研究計画発表、質疑応答
12. 論文11の紹介・研究計画発表、質疑応答
13. 論文12の紹介・研究計画発表、質疑応答
14. 論文13の紹介・研究計画発表、質疑応答
15. 全体のまとめ

5. 成績評価方法：授業中の議論への参加 50%、発表 50%

6. 教科書および参考書：教科書は使用しない。

7. 授業時間外学習：発表のためのハンドアウトは、事前に準備し、発表の週の月曜日までに配布すること。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

Handouts for presentations must be prepared in advance and distributed by Monday of the presentation week.

9. その他：

科目名：言語学論文演習Ⅱ

曜日・講時：金曜 3 限

セメスター：6 単位数：2

担当教員：小泉 政利、内藤 真帆

コード：LB65302, 科目ナンバリング：LHM-LIN335J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：言語学研究法 II

2・授業の目的と概要： 3年生は前期に引き続き論文紹介を行いそれを卒業論文にどう繋げるかを発表するか、卒業論文の構想を発表する。これにより、卒業論文作成のための知識ならびに方法をさらに深く身につけることを目的とする。

4年生は卒業論文の進捗状況を中間発表する。テーマの選択や先行研究のまとめだけでなく、データ収集・調査・実験等の実施方法、分析手法、予想される結果と意義、およびその時点までに得られた暫定的な結果とその解釈などについて、できるだけ具体的に発表する。

その日の発表者以外の参加者は、他者の発表を聴き、ディスカッションに参加することによって、言語学の多様なアプローチへの理解を深めるとともに、論文を書くための方法を学びとる。

3. 学習の到達目標：よりよい卒業論文を作成するための方法を身につける。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. 論文1の紹介発表、質疑応答。卒業論文中間発表
3. 論文2の紹介発表、質疑応答。卒業論文中間発表
4. 論文3の紹介発表、質疑応答。卒業論文中間発表
5. 論文4の紹介発表、質疑応答。卒業論文中間発表
6. 論文5の紹介発表、質疑応答
7. 論文6の紹介発表、質疑応答
8. 論文7の紹介発表、質疑応答
9. 論文8の紹介発表、質疑応答
10. 論文9の紹介発表、質疑応答
11. 論文10の紹介発表、質疑応答
12. 論文11の紹介発表、質疑応答
13. 論文12の紹介発表、質疑応答
14. 論文13の紹介発表、質疑応答
15. 全体のまとめ

5. 成績評価方法：授業中の議論への参加 50%、発表 50%

6. 教科書および参考書：教科書は使用しない。

7. 授業時間外学習：発表のためのハンドアウトを事前に準備し、配布する。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

9. その他：

科目名：言語学演習 II

曜日・講時：火曜 2 限

semester：6 単位数：2

担当教員：那須川 訓也

コード：LB62205, 科目ナンバリング：LHM-LIN337J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：音韻論概説 II

2・授業の目的と概要：この授業を通して、英語と日本語の母語話者が示す分節現象で観察される規則に焦点を当て、音声、言語（文法）構造を構成している単位としてどのように機能しているかを学ぶ。

3. 学習の到達目標：この授業を通して、諸言語話者の (i) 母語の音節構造, (ii) 音現象を制御する規則, (iii) 文法理論における音韻知識の位置づけ、を説明できるようになる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

授業計画は以下の通りである。毎回の進度は受講者の様子によって若干変わります。

第1回：音韻論と音声学

第2回：英語の音配列論

第3回：きこえ度と音節

第4回：英語の音節構造

第5回：オンセット

第6回：ライムと核

第7回：コーダ

第8回：日本語の音配列論

第9回：日本語の音節構造とモーラ

第10回：音節類型論

第11回：強勢規則

第12回：最適性理論 (OT)

第13回：接辞化と音韻規則

第14回：複合語形成と音韻規則

第15回：借用語と音韻規則

毎回授業の冒頭で、前回の授業内容を復習する。

5. 成績評価方法：レポート課題×1 [20%], 確認テスト×1 [70%], 授業への積極的な参加 [10%]

授業の5分の1を超えて欠席した場合は、単位の修得資格を失う可能性があります。また、公認欠席、就職試験に伴う欠席などのやむを得ない欠席以外の場合は、減点の対象となります。

6. 教科書および参考書：必要な適宜資料を配布する。

7. 授業時間外学習：毎回、授業で扱った教科書の個所と例を復習すること。そして不明な部分があれば、教員に尋ねること。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：記述言語学演習

曜日・講時：水曜 4 限

セメスター：6 単位数：2

担当教員：内藤 真帆

コード：LB63405, 科目ナンバリング：LHM-LIN338J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：未知の言語の調査と分析

2・授業の目的と概要：未調査・未解明で文字を持たない消滅寸前の少数言語、このような世界の言語を対象に、音声から音韻、形態、文の構造まで網羅的に調査・分析する方法を実践的に身につけます。さらに解明したことを言語学上の記号と術語を用いて、専門的かつ体系的に記述する方法を学びます。

理論を用いても説明困難な言語現象をどのように分析・考察しうるか実際のデータを基に検討するほか、記述文法・辞書の作成に至るプロセスを体験し、消滅危機言語のアーカイブ化についても議論します。当講義では、話者 4 人の言語と話者 500 人の言語の一次データを扱います。

3. 学習の到達目標：・未知の言語の調査・分析方法を理解する。

・導いた規則性や分析結果を、言語学の術語を用いて記述できるようになる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 世界の言語状況、未知の言語・調査地の探し方
2. 未知の言語へのアプローチ方法、調査媒介言語
3. 調査言語・調査地の決定前に行う準備と許可申請
4. 調査・分析・記述 1：音声の聞き取りと国際音声記号を用いた書き取り
5. 調査・分析・記述 2：音素の設定と弁別的特徴
6. 調査・分析・記述 3：形態音韻論的現象
7. 調査・分析・記述 4：語形成のプロセスと音韻規則
8. 調査・分析・記述 5：品詞分類と定義、文法範疇
9. 調査・分析・記述 6：句・文の構造、文の必須要素
10. 調査・分析・記述 7：結合価、移動、情報構造
11. 調査・分析・記述 8：意味役割、意味体系、発話と意味
12. 調査・分析・記述 9：共時的分析と通時的分析、言語変化
13. 調査・分析・記述 10：説明困難な言語現象の分析と考察
14. 調査方法と得られるデータの違い、データの記録方法
15. 消滅危機言語の記述、保存と継承、アーカイブ化

5. 成績評価方法：定期試験（70%）、発表（30%）

6. 教科書および参考書：適宜、資料を配布します。

7. 授業時間外学習：授業後、扱ったデータや調べた文献をもとにして、さらにどのような調査や発展的分析・考察が可能であるかを考えてください。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：理論言語学演習

曜日・講時：木曜 1 限

semester：6 単位数：2

担当教員：小泉 政利

コード：LB64102, 科目ナンバリング：LHM-LIN339J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：語順選好の認知脳科学

2・授業の目的と概要：サピアとウォーフの言語相対性仮説は、言語と思考の関係をめぐる議論を促してきました。本講義では、この問題を「語順」の観点から検討します。主語が目的語に先行する S0 語順は、OS 語順より処理しやすいとされますが、従来研究は S0 言語に偏っていました。そこで S0 言語と OS 言語を比較し、語順選好が言語固有の文法によるのか、人間に普遍的な認知特性によるのかを明らかにします。

3. 学習の到達目標：(1) 言語理解と言語産出の脳内処理メカニズムの概要を自分の言葉で説明できるようになる。
(2) 言語の語順と思考の順序の関係を自分の言葉で説明できるようになる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 ガイダンス
- 2 語順選好とは
- 3 基本語順における語順選好
- 4 基本語順における語順選好を生み出す要因
- 5 言語理解における語順選好
- 6 言語理解における語順選好を生み出す要因
- 7 言語産出における語順選好
- 8 言語産出における語順選好を生み出す要因
- 9 言語理解と言語産出の脳内処理過程と語順選好
- 10 言語理解と言語産出
- 11 言語理解における文脈の影響 1
- 12 言語理解における文脈の影響 2
- 13 言語産出における文脈の影響 1
- 14 言語産出における文脈の影響 2
- 15 試験と解説

5. 成績評価方法：概ね次のような基準で総合的に評価を決定します。

課題提出（予習、ミニットペーパー）(50%)

試験 (50%)

6. 教科書および参考書：ひとが言葉を理解・産出する仕組み：心理言語学入門

7. 授業時間外学習：毎回、教科書の指定範囲を読んで予習して来てください。授業後は、その日のうちに復習して、理解を確実なものにするようにしましょう。1 週間に 3 時間程度の準備学修（予習・復習等）が必要となります。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business

9. その他：